

共生社会への思い伝える

「車いすのギタリスト」川崎昭仁さん

県福祉大学校（諏訪市清水）で23日、2021年夏の東京パラリンピック開会式で演奏した「車いすのギタリスト」こと川崎昭仁さん（56）＝長野市＝によるコンサートと講話があった。福祉について学ぶ公開講座の一環。参加した介護福祉学科の学生や同校に併設する「ふくしだい保育園」の園児ら約50人を前に、演奏や経験談を通じて共生社会への思いを伝えた。

（松本佳林）

川崎さんは幼少期の高熱が原因で手足にまひが残り、車いす生活を余儀なくされた。ギターを始めたのは高校時代、両腕がなく足で弾くギタリストをテレビで見たことがきっかけ。東京パラの開会式ではオーディションを経て、憧れていたギタリスト布袋寅

県福祉大学校で講話



県福祉大の学生や園児を前に演奏を披露する川崎さん

泰さんと共演した。現在は県社会福祉協議会の職員を務める。

この日は肢体不自由な生活を送る上での工夫や、支援で大切なことなどについて講話。川崎さんは「障がいがあるという理由でいろいろと断られることも多い。人として当たり前のことが平等にできる世の中になれば」と思いを語り、「現場で大事なのは想像力。習ったことをどう生かすか考え、介護に携わっても「ええたら」と期待した。

園児も交えたコンサートでは、ドラえもんや名探偵コナンの主題歌などなじみある曲を演奏。川崎さんのヘルパーで県社協職員、シンガーソングライター小林将大さん（32）＝千曲市＝も歌で参加した。子どもたちは歌詞を口ずさみながら満面の笑みで踊り、一緒に音楽を楽しんでいた。

園児交えて コンサート